

幼児の健康保育 (十四)

お茶の水女子大学助教授
 愛育研究所員
 平井信義

十二 幼児の救急処置法と看護法

今回は、母の講座として、子供を襲う災害及びびかんたんな
 急救処置法と看護法のお話をしましょう。幼稚園、保育所で
 も勿論必要な知識です。

一 子供を襲う災害

子供に不慮の災害が多いことは、我が国でも他の国でも余
 り変わりません。毎年沢山の子供が死んでいく、——本当に一
 瞬にして生命を奪われるものですから、こんなに悲しい情な
 いことはありません。

自動車にひかれた、用水池に落ち込んだ、やけどをした。
 骨を折つた、犬にかまれた……、不慮の災害は、大小様々
 な形で子供たちに襲いかゝります。一才〜五才の幼児は、我

1.	溺	死	3560
2.	熱	傷	1535
3.	食	中 毒	830
4.	墜	落	438
5.	自	動 車	290
6.	市	街 電 車	179
7.	室	息	173
8.	暑	熱	145
9.	急	性 中 毒	115
10.	鐵	道	111
11.	有	毒 ガス	94
12.	そ	の 他	1226

つを合せると約四千人となり事故による死亡の五分の三に当
 ります。アメリカでも同様です。

家庭内で起る大きな事故の中、最も多いのは、何といつて
 も火傷です。一年千五百人前後の乳幼児が死ぬとは誠に傷ま
 しい。死亡に到らぬが、不具、醜形を身につける子供たち
 は、死亡の数十倍に及ぶと推定されています。
 子供自身、災害を予防する力はありません。こうした災害

が国では年に約七千
 人も死に、幼児の死
 亡原因の第五位を占
 めている程です。
 最も多いのは、溺
 死で約三分の一、次
 が交通事故。之ら二

はすべて大人の不注意から起きるものです。全くつまらない
どうぞ呉々も注意に注意を重ねて下さい。一人でもこの不幸
を少くしたいものです。

家庭内で起る小さな事故は、切傷、刺傷、かすり傷、爪は
がし——などから、打撲傷、血腫、突指、その他、捻挫、骨
折などでありましょう。実際、元氣な子供は生ま傷が絶えな
いほどで、泥まみれになつて帰つて来た子供を風呂に入れて
みると、膝に手に、或いは横腹にまで、全身これ傷という状
態でびつくりさせられることがあります。

二 救急処置

(a) 刺傷、切傷など

之には消毒ということが大切です。ふつうの皮ふはばい菌
に対して抵抗が強いが、傷ついた場処は弱い、そこで傷の面
に消毒薬を塗つて、ばい菌のついていない布か、消毒薬をつ
けた布で被つておくのです。その際に綿を使うのはいけません。
癒りかけた組織（主にかさぶた）と綿とがからみ合つ
て、綿を取るときにかさぶたをはぎ取ることが多いからであ
ります。

消毒薬はマーキロチンク・オキシフル・沃度丁幾、何でも
結構です。但し沃度丁幾は非常にしみますから、子供には可
哀そうです。

傷口が小さくて奥の深い傷はうみ易いから注意をしましよ

う。そんなときは消毒した針や小刀で傷口をひろくしておく
とよいのですが、もしものことがあるといけなから、医者
にみてもらつた方が安全です。

とげの入つている傷、——之は必ずとげを抜いて、口をひ
ろげ、消毒薬をつけておく必要があります。

(b) 打撲傷、血腫

あざ、こぶの類です。之は打つた為の皮ふの傷はないが、
中で血管が切れて組織の中へ血液があふれ出たものです。血
液を早く吸収させればよいのですから、湿布は礬酸でも、メ
ンタ水でも、何でも結構です。冷湿布でよいでしょう。おで
このこぶは一日位後に、まぶたの方に下つて来て目が張れば
つたくなりますが、之は全く心配いりません。但し打つた場
処がすぐあざになる子供は血液の病氣がありますからすぐに
検査をしてもらわぬと危険です。

近頃は幼稚園、保育所の子供までが野球をする様になり、
突き指も多くなりました。之も湿布をして安静に保つことで
す。

(c) 捻性、脱臼、骨折

捻挫は筋肉をひつばつてゐる筋が、その通る道からはずれ
ること。通る道とは骨にそれぞれ定つて刻まれているので
す。くせになつていて、一寸手を強く引いたりするとすぐは
ずれる子供がいます。之は動かさない様にして医者にいき、

早く入れてもらふことです。

脱臼、骨折も、その場処を出来るだけ動かさない様にして医者を訪うことです。動かさない様にするには、支えが必要で、戦争中はどの家でも木を用意していましたが、あの様なもの、杖でも板でもよいから、その場処につけ、繃帯で動かさない様にしぼる。骨折の際、上下二つの関節が動かぬ様にしぼることが大切です。

子供は痛がつて泣き、親も心が乱れるものですが、腹によく力を入れて、決して騒ぐことなく、早く医者につれていくことです。

(d) 火傷

熱湯をひつくり返した、——幼児期の子供は活動がさかんですから、この事件が非常に多い、殊に冬に向う頃が非常に多いのです。程度がひどいと一生痕がとれませんから、是非注意したいものです。よくよく注意していても、犯し易い過ちです。

お湯のかゝつた場処に衣服がついていたら、すぐに切り開く。殊に中の皮ふをこすつたり、水疱をつぶし取るこのない様に注意したい。傷を出したらすぐに油を塗ります。アマリカの薬ですが、タンニン酸の入つた軟膏があります。之は非常に効果があります。日本でも当然出来てよいと思えます。

水疱があれば、皮ふを傷つけぬ様に中から水を出しておき

ます。すべては菌がつかぬ様によく消毒したもの、消毒した手を用いなければならぬのは当然です。ばい菌がつくとそれこそみじめです。

私の経験した火傷の場面を参考までに並べてみましょう。

廊下の曲り角で、走つて来た子供と茶罐を持つた大人のところがぶつかつて、顔から熱湯を浴びた。

ストープの側で遊んでいて、上にのつかつていた薬罐を捧でひつくり返し、そにばいた弟にひつかけてしまつた。

大きな洗面器に入れた熱湯を床において一寸よを見をしてゐるすきに、あとすさりした子供がすつぽり洗面器に腰を入れてしまつた。

田舎では決つていろいろとみそ汁。

(e) 墜落

もの干し台から落ちた。二階の手すりから落ちた、——この種の事件も相当多いものです。事件の割に比較的大きな傷が少い。先日も二階から落ちた子供ですが、下の狭い溝にすつぽりはまつて、どこにも怪我がありませんでした。二、三寸ちがつて落ちても、コンクリートの角にぶつかるのでした。

こんな事件のとき、大騒ぎをして病院に運ばれて来ますし、本人も泣いています。子供は騒ぎが大きくてびつくりして泣いていることもあるのです。

脳振盪をおこしていれば、もち論安静が第一です。動かさ

ぬことです。意識はなく大小便はたれ流しにいでしよう。いろいろ看護に細かな注意がいりませうから、医者の方図によく従いませう。意識を取戻すことが早い程、癒りはよいでしょう。

その他頭蓋底骨折といつて、大切なせきすいや脳神経の出ている部分の骨折があると、全く助かりませせん。勿論意識はないが、吐いたり、耳や鼻などから出血いたします。

内臓に傷が出来る場合があります。その為に腹膜炎を起したりすることもあります。その為から六、七時間経てりして腹がはるとかいたむとか何ともなければ心配はいらなうでしよう。但し尿の検査で一応確かめておくことが大切です。尿の中に血液がなければよいのです。

(f) 交通による災害

一番多いのが、道路の横断です。道路上での遊戯を禁ずることは勿論ですが、遊び場のない今日、他によい場処を与え、政治の力で実行して欲しいと思ひます。東京などでは子供遊園地が出来ました。小さな子供がそこに集まつて遊んでゐるのは、本當にうれしいことです。——伝染病さえ注意してもらえれば……

又、近くに横断しなければならぬ道路のあるところでは、訓練をすることも大切です。お父さん、お母さん、どなたでもよいから、一緒に右を見、左を見、横断する様に、それを度々練習しておきませう。

(g) 溺死

之も平生からの訓練です。どこへいくにもお母さんの許可を得ていく様にすれば、安全です。それは然し、たゞがみがみと「お母さんに言いなさいよ」ということではありませせん。がみがみ言うお母さんには、却つて子供はこつそり黙つて出かけてしまふものです。普段から、子供の話をよくきいてやるのが大切なのです。

殊に近くに川や用水池のあるところでは、注意したい、川には必ず大人が附いていく様にしましう。

(h) たおれたとき

今まで元氣であつたものが、急に顔を青くして倒れたときは、脳貧血を考へるべきでしょう。頭を低くして寝かせ、胸や腹をきつくしめてゐるものはほどいて、らくにしてやりませう。が別に恐ろしい病氣ではありません。医者の方図で暑い飲物、アルコール飲料、をのませたり、強心剤の注射をします。但し目頃から貧血の強い子供は、その原因をたしかめておくことを忘れぬよう。又てんかんには注意していなければなりません。

(i) 鼻血の出たとき

子供を静かに寝かせ、特に頭を幾分高くする様にして、きれいな綿を小指の先程に丸めて、鼻の孔に深く入れる。そして鼻の上には氷嚢(ひょうのう)をあてがうとよいでしょう。

習慣性に鼻血を出す子供があります。そんなときは、椅子に子供を坐らせて、小鼻から鼻の中隔に向けて指で強く圧迫させるのも一つの方法でしょう。

家がむしむししていたら、窓を開きましょう。

(j) 耳に異物が入つたとき

小さな豆、卸、虫などを耳に入れることがあります。豆などをピンセットで取出そうとすれば、それは非常に危険です。奥へはじいて鼓膜を破く恐れがあるからです。先の曲つたものでそつとかき出す様にするのですが、取りにくいときは、必ず医者に頼みましょう。

虫が入つたときは、入つた方の耳の穴を、太陽又は電燈にむけるがよい。大抵はい出しします。

(k) のどにものがつかえたとき

のみ込んだ異物(例えば玩具とかメタル・豆など)がのどにつかえたときは、前屈みにして、背中を平手で打つてみます。或いは鼻の中にかんじよりを入れてくさみをさせてみます。

小骨とか釘の類であれば、外から見えるものはピンセットではさみ取りますが、見えぬときは握り飯や芋類のみ込ませます。之は子供ではなかなかむすかしく、取り難ければ早く医者にいくことです。耳鼻科です。

異物が気管に落ち込んだら大変です。生命にかゝりまゝです。その時ははげしい咳が出ます。咳のあとけりりとしてい

ても必ず見てもらうことがよいでしょう。

(l) 目にもものが入つたとき

決してこずることのない様に、すぐ目ぶたをひつ繰り返して、ごみをきれいな布でふき取ります。そしてあとえペニリンの入つた点眼薬をたらしておけば安全でしょう。

(m) どこか痛みを訴えたとき

どこの痛みでも、原因をしらべること、殊に内臓の痛みは医者でも鑑別がむすかしいから、決してしろうと判断をしないで、医者を訪い、いろいろの検査をしてもらいましょう。

(n) 熱の出たとき

何となくからだか熱い、ひたいに手を当てたらあつい、— たゞそれだけの言い方をするお母さんがあるが、之をきいても医者は正しい判断をすることは出来ません。必ず体温計を用いて測定しましょう。

熱の高さは、病気の重さと必ずしも一致しません。高いからといってあわてずに、その熱がどこから出ているか、医者が原因をさがし易い様に協力したい。従つて、むやみに解熱剤を使うのはいけない。熱の型でわかる病気も、その型を乱してしまふおそれがある。又、むりに熱を下げてみても、もとの病気はなおりません。

静かに寝かせ、三十八度以上なら、水枕又は氷枕をしてやり、うるさくない様であつたら、氷嚢をあてがいます。

(o) 便の異常について

便の様子は、病気を表現するから、よくその性質を見て、医者に知らせること。便の色、固さ、粘液、顆粉、におい、その他についてよく観察しておきましょう。最新の便は保存して医者に見せるのは最も手取早いことです。

(k) 尿の異常について

赤味が強かつたり、回数が多かつたり少かつたりすること、気のつくことが多い。必ず尿の検査を受けなくてはなりません。清潔な無色のコップに直接取るのがよいでしょう。

(q) はき気について

吐くということ、胃腸の病気によつても起るが、その他脳や脳膜に変化のあるときにも、腹膜に炎症のあるときにも起り、重い病気の表現であることが多い。食事と関係するかどうか、吐く他に吐き気があるかどうか、……

吐き気を催したときは、胃の中のものが出易い様な格好に病人の体を助けてやります。そして背中をたたく下から上へ逆にする、はく力を助けるばかりでなく、慰めにもなります。吐いたものは必ず保存して医者に見せましょう。

三、看護の仕方

必要な器具と薬品

(器具) 検温器。浣腸器。氷嚢と水枕。湯たんぽ。懐炉。吸入器。胸湿布帯。吸飲み。ピンセット。鋏。薬匙。コップ。

綿棒。尿器と便器。

(薬品) グリセリン、沃丁。マーキロチンキ。酒精。ヒマシ油。ワゼリン。硼酸軟膏。ビツク膏。硼酸。重曹。

(その他) 脱脂綿。リント。絆創膏。油紙。繻帯。ガーゼ。次に要点だけ述べましょう。

(a) 体温の測定

卅五度以下に下げ、水銀玉が腋の下の真中に当たるようにはさみ、すり落ちぬ様におさえ、五分以上測る。

一日三回、その他最高又は最低時

(b) 脈搏数の測定

手首で、人差指、中指、薬指の三本を動脈に沿つておき、二〇秒測つて三倍するか、三十秒はかつて二倍する。

(c) 呼吸数の測定

脈搏をはかりながら、胸を見ているとその上下でわかる。早いときは、鼻の下に羽毛や鏡をあてがつてはかる。

(d) 浣腸の仕方

洗腸器の先にワゼリンを塗り、肛門を傷付けぬ様に注入する。その際、腹圧が加わらぬ様に、口をあけさせる。

薬液はゆつくり注入して、後静かに洗腸器を抜き、脱脂綿で肛門を圧え、二三回之を繰返して必要量を入れる。後肛門をおさえたまゝ静かにねかせ十分程がまんさせる。

(e) 水枕・氷嚢

(以下三六頁餘白へ)

大きな影響を与えて恐縮している。之はまさに最初の来島講師であつたためであり、彼地の教員諸君が日本の指導を待望している反映でもあろう。

沖繩の学生たちも日本への留学を心から望んでいる。今日米國にも日本にも留学できる途が少し開けているが、彼等はアメリカよりも日本に行きたいと言つてゐる。アメリカへ一年行くより、日本に数年学んで知識や技術を身につけなければものにならないと考へてゐる。沖繩ではアメリカ帰りよりも日本帰りの方が幅がきくとも言われている。或八重山の高校生たちは自費留学でよいから日本への進学を門戸を拓いてくれと切望した。しかし日本に渡航するには日本の大学の入学許可証明が必要であるから、沖繩で試験をしてくれない限り進学の路は無いのである。この点を解決することは目下の要望である。

先年のクリスマスに沖繩の小学生たちはアメリカから沢山の菓子をもらい

大喜びであつたが、その感想文に、こんなおいしいお菓子を沢山もらつて大変嬉しかつたが、「しかしこれが日本からのお菓子だつたらなあ」と、附言した子があつたという。子供たちにまで、こんなに日本を慕ふ切ない願ひがあるのである。

読者はこれで沖繩の教育の方向は理解されたことと思う。しかし極幼少な子供は今後どう伸びるであろうか。富

(四八頁より)

水と一緒に空気を入れないことがコツ。水も袋一杯に入れれない。水は細かく砕いた方が病人には楽である。

枕は布でくるみ、ゴムが直接に触れない様に。口金は返す返すよくみておかないと、蒲団をぬらしてしまう。

(f) ゆたんば

容器に入れたまゝわかすときは、必ず栓をとつておく。必ず体から三尺は離して入れ、火傷させぬ様に。勿論栓には慎重な注意がある。

古の小学校で夏休の製作品を見たが、皆仲々よいものを作り、特に教材に直ぐ使用出来る程の地図や社会科学の掛図には感心したが、その中で小学一年生の作品中に粘土製の立派な船があつた。ところがその船につけられた旗は星条旗であつた。信託統治が長引けば次々代の沖繩人の考え方は今日とは大いにちがつて来るだろうことも併せ考へねばならないことである。

(g) 懐ろ

火傷をさせぬ注意。

(h) 吸入

蒸氣の出る穴がつまつていないか、よくしらべてから組立てる。

蒸氣が出て来ると、最初に熱い湯の玉が飛び出すから、患者の顔からそむけておき、安全になつてからあてがう。

ふとんがしめらぬ様、油紙とタオルを充分に用いる。

あとに顔の荒れを招かぬ様に、クリームを塗つておく。

(以下次號)